

井筒屋町造商店が立ち上がるまで(3)

秋田家建物の新しい名前を募集 全国から 42 件の応募

2004 年 9 月～11 月

「井筒屋町造商店」に決定

9 月 12 日から 11 月 11 日まで、中央公民館、ヘアサロン・オザワ、喫茶グリーン、半田屋時計店、島村酒店に応募用紙と投票箱を準備するとともに、ホームページを設け、名前を公募したところ、42 件の応募がありました。

11 月 12 日にワーキンググループ 10 人のメンバーの投票で、かつて綿糸商を営んだ秋田家の屋号として使われていた「井筒屋」に因んだ「井筒屋町造商店」に決まりました。他に提案のあった名前には、會所井筒、銀座百禄倶楽部、和み家、よろづ井筒屋、野老沢情報館などがありました。

当初、井筒屋町造商店は、「いづつやまちぞうしょうてん」という読み方で応募されたものでした。しかし、秋田芳浩さんからまちづくりのための施設なのだから「いづつやまちづくりしょうてん」と読んでほしいとの提案に基づいて、現在の読み方になりました。

井筒屋町造商店の名付け親の権田和司さんには、開店の日に記念品が贈られています。



2004 年 12 月～2005 年 1 月

正月休みも返上しての開店準備

開店に向けての打ち合わせ

打ち合わせは、年末の 12 月 30 日、31 日にも行いました。

30 日には、工事の進捗状況、店番シフトやボランティア募集など運営方法の確認、パンフレット・ポスターなどに

ついて検討しました。

さらに、31 日には、言葉を集めたインスタレーションや羽子板の展示のあり方、空間の区切り方などを打ち合わせました。来店者も関わる参加型にしたいこと、インスタレーションの具体的なつくり方、見てくれる人に気づきがあるようにするには・・・などについて話し合っています。

* インスタレーション installation

空間を総体として見る人に示す芸術です。今までの活動で集めてきた言葉をふきだしのかたちにして建物の空間内に展示することで、多くの人の町への思いなどを伝えようと思いました。

インスタレーションのふきだし

年末 31 日の打ち合わせで、デザインのプロである荒川真樹さんと田子裕子さんから井筒屋町造商店用につくられたデザイン資料をみながら説明を受けましたが、ふきだしづくりは、荒俣

桂子さんが中心になり市職員のボランティアが担当しました。ふきだしは複雑な形をしていて、切り抜くのが最初は難しいのですが、やっているうちに慣れてきます。ふきだしの展示は開店直前 2 日前になりました。

市民は
オーナーでも
あり、客でも
ある

桂子さんが中心になり市職員のボランティアが担当しました。ふきだしは複雑な形をしていて、切り抜くのが最初は難しいのですが、やっているうちに慣れてきます。ふきだしの展示は開店直前 2 日前になりました。

開店記念の小芝居の稽古



100 年前の糸問屋の様子について「所沢市史」などで調べ一部勝手な想像を加えた第 1 部と今後、井筒屋町造商店が多くの市民に支えられたらという願いをこめた第 2 部という構成で、開店日における寸劇を企画し 1 月 5 日から稽古を行いました。

昔の所沢・昔の井筒屋 - お話聞く会

1 月 8 日(土)13 時 30 分から井筒屋町造商店において、開店 1 週間前のイベントとして、昔の所沢や井筒屋についてのお話を開催しました。新聞報道やポスター等で知った市民を中心とした約 100 の方が集まりました。



宮本八恵子さんと三上博史さんのお話を皮切りに、マチ場の昔話や所沢の代表的な織物として作られていた所沢飛白(ところざわがすり)の話のほか、会場の皆さんからも予想もなかったような身近な生の言葉もたくさん飛び出しました。



当日の多くの言葉は、開店時にインスタレーションとして展示しました。

2005 年 1 月 15 日(土)午後 2 時

井筒屋町造商店 開店！！

多くの方の協力のもとに



事前の準備に限らず開店にあっても、(株)面亀さんのご好意による熊手や重松流祭囃子(梶谷和義さんは井筒屋町造商店スタッフ)で盛り上げていただくなど、多くの方に支えられて開店を迎えることができました。